

河合谷小学校の直接請求にあたり河合谷小学校の保護者を代表して、意見を述べさせていただきます。

私は能瀬地区から河合谷小学校へ子供を通学させている保護者の一人です。

まず言いたいことは、私たち保護者が学校存続を願う理由です。自分たちの子供を河合谷小学校へ通学させたことにより、今までより一層たくましく、すこやかに成長したことを実感し、感謝し、この素晴らしい学校を他の子供のためにも残してほしい、と願って起こした運動なのです。

河合谷という地区の、人々や自然と一緒に学べる、他ではまねのできない特別な学校です。

少人数校ながら、穴水の鹿波小学校との交流化、町内小規模校3校交流、みどりの少年団他、町内の行事にも多数参加し、町内の大規模校よりも、多くの交流を持っていると思います。

本当は町議の皆様には、河合谷で学んでいる子供たち一人一人をご自分の目で見て感じてもらって、教育委員会の言う通りまともな教育を受けていない、将来津幡町のためにならない子供たちかどうか、確かめていただきたいのです。

私の個人的意見ではありますが、閉校問題が議会で可決された経緯にとっても不信感を持っています。平成15年2月10日に河合谷小学校入学通知が届きました。平成15年1月28日教委告示第1号特認校実施要項などの書類も同封されていました。(※現物)まさにギリギリの決定でした。

過去数ヶ月の話し合いがやっと実ったと喜びました。

微力ながらPTAと、振興会の力のおかげで最初に提示された最低10名を確保しつつ、幸せな月日を過ごして来ました。

ところが一転、平成17年10月24日に教育委員会で廃校決定した内容を、同年11月22日に当時のPTA会長に電話にて報告して来ました。

あまりにも突然、あまりにも不誠実な態度に教育委員会に説明会を要請、同月26日に説明会が行われました。

内容は決定報告のみで、協議とか話し合いのレベルではありませんで

した。

そして問題はリコール運動にまで発展しそうな勢いまで泥沼化し、住民と行政が対立する（恥ずかしい町 津幡 ）として、新聞、テレビ等で、県内外に広く知られる事となりました。

この問題を解決する方法は、いたって単純です。

一般的に問題が発生した場合、原因を発見し、修正して、やり直す事です。

原因は、平成17年10月24日に、教育委員会会議で廃校を決定した時にあります。

廃校を決定する事自体は問題ではありません。

その後に学校、保護者、地域と協議していれば良かったのに、そのまま議会に持っていった事が、一番の問題です。

その問題を指摘された事により、自分たちの責任のがれの為に、嘘に嘘を重ねて大きな問題に発展にしたのです。

修正する為には、教育委員会が、この問題に携わった人々に謝罪し、行政、議会にまで迷惑をかけた責任を取る事が必要です。

その次に、新しく組織された教育委員会に、改めて会議していただき、同様の結論が出たときに、学校、地域と協議をする所までやり直せば、問題は終息するでしょう。

そうすれば、町民の行政に対する不信感も、少しは収まり、穏やかな気持ちで話し合いをする事ができると思います。

人を信じる気持ちは大切です。

でも本当に相手が信用できる人物かを見極める力は、本人のスキルなのではないでしょうか？

ご自分の良心に従って、何が本当で何がウソなのか見極めたうえでの判断をお願いします。

今回の署名活動のおかげで気づいたのですが、子供を河合谷小学校に通わせたいと思っている方々が、まだ町内にたくさんいらっしゃいます。

在校生のためにも、これから通いたいと思っている方々のためにも、このすばらしい学校を続けるチャンスをください。

お願いします。

町議の皆様を信じつつ、私の意見陳述を終わります。

有難うございました。

松本 義輝